

クラブ活動を通じた地域社会との交流

(担当：子育て支援部青少年課きよはら児童館)

事業の背景・目的

【きよはら児童館ダンスクラブ】

児童館を利用する児童が、日頃の児童館での遊びとは異なる活動として、異学年の児童と一緒に継続的に活動することで、集団活動での協調性や友達同士でのコミュニケーション能力の向上を図っています。また、ダンスクラブでの活動を通してダンスの楽しさや、みんなでひとつのことに取り組むことの面白さを味わうことができるよう努めています。

これらを通して、児童館が児童の居場所として引き続き確立されるよう取り組んでいます。



事業の概要

東大和市内の児童館では、小学生等を対象としたクラブ活動を実施しています。そのうち、きよはら児童館では、ダンスクラブと将棋クラブが活動しています。このうちダンスクラブは、10年以上の活動実績があるクラブで、児童館内プレイルームにおいて月3～4回程度、16時30分～17時30分に、小学校3年生～6年生(20～30人程度)を対象に活動を実施しています。毎年4月に参加者を募集し、5月から翌3月までを活動時期としています。(小学校の長期休暇期間は除く)

講師として、地域の公民館等でもダンス講師として活動している方を招き、主にヒップホップダンスを練習しています。講師との日程調整や参加者募集、参加者への諸連絡等を児童館職員が担い、活動や発表内容の決定等は講師を中心に参加児童が一緒になって進めています。

秋～冬にかけて、地域の文化祭などに参加し、活動の集大成としてダンスの発表を行うとともに、地域社会との交流を行っています。



工夫点・留意点

児童館だよりや市報などを用いて活動の周知に努めています。本活動は地域の子どもたちには知られた存在であり、申込日には児童館に行列が毎年できるほどの人気となっています。

参加者の目標となり、活動のモチベーションとなるよう、地域の文化祭等における発表の場を設定しています。



事業の効果

子ども同士と一緒に活動を重ねることで、チームとしての一体感を醸成し、同じ目標に向けて進んでいくことの面白さや達成感を味わうことにつながります。また、努力することや練習を重ねることの大切さを学び、子どもたちが自信を深めていけるよう取り組んでいます。

異学年の友達を作る機会となることで、交流の幅が増え視野の広い子どもとなることが期待でき、さらに体を動かすことによって心身の成長を促進する効果が見込まれます。



課題・今後の展開

コロナ禍において、地域の文化祭などの活動成果を発表できるイベントが、変更や中止によって無くなっており、活動のモチベーション維持や目標地点の設定に苦慮しています。

また、館内が広くなく、ダンスクラブの活動時間帯と一般の利用者が多い時間帯が重なると、一般利用者の遊びの内容に制限がかかってしまう場合がありますが、職員が子どもへの配慮をしつつ活動を見守っています。

活動成果を保護者や地域の方々に発表することができる場を確保することで、コロナ禍においても地域とのつながりや仲間との一体感を感じることができる活動として、今後も地域の子どもたちが楽しみながら集まるよう努めていきたいと考えています。